ＮＰＯ法人わの会福祉事業所　2024年1月

わの会通信

Vol. 47

2024年1月15日発行　発行元:NPO法人わの会　住所:府中市住吉町1-60-10　TEL／FAX:042-360-3626

新年あけましておめでとうございます

1月は新年を迎え、新たな気持ちでスタートを切る季節です。皆様も、健やかに新春を迎えられたことを心よりお祈り申し上げます。

新型コロナ感染症は5類感染症に移行しましたが、皆様には大変なご苦労があったと思います。今後も予防と対策は十分注意をはらいましょう。

わの会創設より四半世紀にわたり、難病ALSであっても地域で暮らしていけること、さらに「介護の社会化」を目指して自らも理事長として先頭に立ってきた佐々木公一さんが、病状の悪化により職務の継続が難しくなりました。新理事長が決まるまで副理事長の竹村清が代行を務めます事を皆さまに報告いたします。地域での暮らしを支える介護や福祉を作り上げてゆけるよう一層の努力を重ねてまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

NPO法人わの会副理事長　竹村清

特定非営利活動法人 **わの会**

府中市住吉町1-60-10
TEL:042-360-3626

←詳しくは、こちらの
わの会HPへ

【５つの事業】

①府中自立支援ネットワークわの会（自立支援）
TEL:042-360-3626

②デイサービスりんりん（地域密着型通所介護）
TEL:042-361-6001

③重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）

④ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）
TEL:042-336-7445

⑤わの会相談支援（計画相談事業）　TEL:042-319-2688

自分たちの仕事を言葉にして発信

NPO法人わの会事務局長　志鎌　哲

「介護保険が危ない！（上野千鶴子 樋口恵子 編）」という本を常勤全員で読むことに取り組んでいます。介護保険は2000年にスタートしましたが、それは「措置から契約へ」という福祉構造改革の流れを体現するものでした。そして20年が経過し、歴史的な評価を得られるようになった今、何が起こっているのかがこの本では多数の証言をもとに明らかにされています。

国が社会保障費の抑制と制度の持続可能性を追求し自己負担を強く求めた結果「介護の社会化」が大きく後退したことを皆が感じています。

介護福祉事業に吹く風は厳しく、さらに近年新型コロナの社会に与えた影響も大きいものです。わの会においても事業収益を大きく落としています。しかし、それは私たちの仕事のやり方に問題があるのではなく、社会的な構造の問題がいよいよ顕在化したものであるとこの本を読んで思います。

ケアを受ける側も行う側も不幸になる流れをただ受け容れる事が良いはずはありません。自分たちは何をしているのか、何を求めるのか、何が求められているのか言葉にして伝えてゆく必要があると感じます。

来年度の介護報酬改定で予定されていたケアマネの有料化など自己負担をさらに求める改定は強い反対の声に先延ばしされるなど、声を上げる事は決して非力ではありません。私たちも声を上げればよいのです。

介護、福祉をめぐる現状はかなり厳しいものと認識しています。新型コロナウイルスが5類となって緩和ムードの中でひとの動きも活発化しましたが、そこで起きたことは介護福祉からの人材流出でした。10月には最低賃金が過去最大の上げ幅となり、介護報酬に依拠せざるを得ない介護福祉事業は賃上げが難しく、他業種との差が縮むことで人材確保の困難が加速しています。同業他社ではなくすべての業種が人材確保における競争相手となっています。そして、介護業界の平均賃金は日本の労働者の平均賃金と比べて年間40万円の差があります。命を守り暮らしを守る私たちの仕事は、困難を伴いますが世のため人のための大切なものであり、そこに自負もあります。しかし、自負が搾取され、賃金は低いまま仕事は増え続けています。それが嫌なら「市場からの撤退」を国はちらつかせます。先日も大手介護事業者が生命保険会社と合併をしました。みんな生き残りをかけています。

この中で声を上げてゆく事は難しく思えてきます。実直に謙虚に仕事に取り組むだけで精一杯で、不言実行という美徳もあるかもしれません。しかし、介護福祉は究極のコミュニケーション職です。利用者さんに限らず、ご家族、他職種とチームを組んでケアに取り組んでいます。「言葉にする力」をわの会はすでに持っていると言えないか。しかし、この力を磨いて、さらにみんなのために使えるようにするためには、やはり話し合うことが必要です。

2024年3月に年間総括をスタッフが一堂に集まって行うことを予定しています。自分たちの仕事を言葉にして発信していきましょう。

わの会の楽しい活動

こんな研究結果があるそうです。
「運動は身体的にも、認知的にも良い事だが一人で黙々とウオーキングしている人より、何人かで集まっておしゃべりしている人の方が、体力面、認知面を比べると優れている」この研究結果がまさしくそうだとすれば、小散歩やミニデイ。コーラスや絵を描く会。お弁当DAYにチマチョゴリバザー、福祉まつりとネットワークの活動そのものではないでしょうか？

これらの活動を実現できるのも、梅が欲しいと言えば「家の梅取りに来て良いよ」渋柿を探していると言えば「福島の友人から手に入るよ」「原村の渋柿送るよ」ミニデイでやる事を考えていると「押し花を沢山持っていて指導もしてくれる方がいるのよやってみない？」などと運営委員の方々から声が掛かったりと皆さんの人脈(ネットワーク)のおかげです。

今年度は長らく中止になっていた府中市の借り上げバスによる「バスハイク」を行う事が出来ます＝1月15日(月)山梨方面＝会員さんの希望が多かった行事だったので復活は嬉しいことです。会員さんの笑顔とおしゃべりがいっぱいのバスハイクになりますように！と思い準備をすすめています。

ネットワークの会報「みんなでいこう」も発行から100号を超えました。この100号を記念して冊子を作ろうと計画しています。昨年末に企画を始めたのですが進んでいません。現在で30人の会員さんのインタビュー・ご寄稿が集まっていますので完成まであと少し(？)です。皆さんにお配りできるように頑張ります。

学生スタッフ大活躍、見学者増、スタッフの確保が課題！

管理者　津田　久美

デイサービスとしてご本人やご家族の安心が得られるケアを提供していますが、りんりんとしては利用者様の個性を大切にしてきめ細やかに柔軟な対応を心がけています。ご本人がただケアを受けるだけでなく「誰かの役に立っている」と感じ満足していただけるよう配慮しています。上半期は、ケアマネージャーへご利用者様の活動状況を写真で報告するようにしたところ、これらの取り組みに理解を示してくれる事業所が増えて、見学者も増えました。学生のパートスタッフも大活躍しています。

5月の新型コロナの5類移行から労働市場が活性化し、求人難となっています。りんりんでもパートスタッフが見つからないなど人材確保に苦戦しています。「りんりんのケア」を進め、多くのケアを安定して提供するためにも人材確保が課題ですが、ドライバースタッフが時間を延ばしてヘルプに入ってくれたり他の事業部門から応援スタッフが駆けつける等、りんりんは多くの人に助けられています。感謝の気持ちと「りんりんのケア」をみんなに知らせて行く事で、人を確保しこの難局を乗り越えたいと思います。

数年ぶり納涼祭開催！

ここ数年自粛していた納涼祭を開催！縁日をイメージ、射的や、輪投げ、魚釣りのレクリエーションを用意しました！レク後はチョコバナナやフランクフルト、かき氷を食べお祭り気分を満喫！しかし！チョコバナナがうまくいかず…来年はリベンジしたいです！**- 9月2日の投稿の抜粋**

尺八ボランティア

10月20日尺八の演奏会を行いました。５年程前出会い、数回来ていただきましたがコロナのためにご無沙汰していました。童謡唱歌や歌謡曲など馴染みの曲を演奏し、みんなで歌唱しました。**- 10月23日の投稿の抜粋**

りんりんブログ更新中

デイサービスりんりんでは、利用者さんたちの日常の様子をブログで配信中です。月に数回更新を目指し投稿しています。是非、ご覧ください！　☞QRコードを読み込んでください。

利用者様の高齢化によるADLの低下に対して QOLを保つための取り組み

管理者　高橋　直子

ヘルパーステーションあいあいは「ご本人の出来ることを維持、継続」できるよう訪問介護に取り組んでいます。昨年と比べサービス提供時間は増え、あいあいの仕事が皆様に求められているという手ごたえを感じますが、利用者様の中には高齢化に伴うご自身や環境の変化への対応が、改めて求められる事が増えました。家族から離れての独居などの場合、現場でヘルパーに予定外の支援を依頼される場面が出るなど急な対応も求められます。本来はここにケアマネージャーや計画相談員が入っての調整となりますが、今までご本人が頑張って全てひとりで生活を組み立てていた事から「自分で出来ることを維持」するために相談員を入れたくない気持ちが強い方もおられ、その場でヘルパーに解決策を相談されます。「ヘルパー事業所としてどう対応することが良いのか？」サービス担当者間で検討したり、他事業所と情報交換をしていますが、人の暮らしにはグレーゾーンが多く、単純に制度を当てはめるだけでは難しいことを感じます。学ぶ機会が必要に思います。下半期はヘルパーが学びたいことの研修を計画し、実施していけるようにしていきたいです。

ハーモニカのおさらい会

半身不随の利用者Kさんが１０月22日「ハーモニカのおさらい会」で演奏しました。９年前から毎日５時から練習をしてきたそうです。動画を見返すと「失敗した」と言われていましたが、なかなかの大作でほっこりする音色とテクニックで素晴らしい演奏でした。－ 10月31日の投稿の抜粋

小学校で講演しました

9月末視覚障がい者のKさん（80代男性）が、市内の小学校4年生の授業で講演をされました。90分話すのは年々体力的に大変になっているとのことですが、「子供達の感想文を聞くと学習に役に立っていると思えるし、なにより道を歩いていると子供達が声を掛けてきて交流できるのがとても嬉しい」と、Kさんは言います。

－ 10月31日の投稿の抜粋

ブログはこちら→

上半期の総括と成果

研修担当責任者　森田　恵美

令和5年度上半期の重度訪問介護従業者養成研修は5月・7月に2回実施し、外部事業所11名とあいあい登録4名が研修を修了しヘルパーとしての第一歩を踏み出しました。

今年度、あいあい登録ヘルパー獲得に向けて、9月に1大学・2看護専門学校へ重度訪問研修の開講とあいあいアルバイトのチラシを送付しました。早速、看護専門学校が学内掲示をしてくださり新たな学生さんより応募がありました。

また、今年度から一般・学生問わずあいあいのヘルパーとして従事くださる方々へは資格取得費用を無料としました。

講義内容はあいあいのサービス提供責任者間で検討し、サービス提供現場で実践に役立つ内容（移乗・喀痰吸引・胃瘻など）を取り入れるよう講師の方々に依頼し講義内容を実践的なものにしました。現場実習は派遣先の利用者様に受入れを依頼し快諾を得た後、資格取得後のヘルパー研修や一人立ちがスムーズに運ぶ様に進めています。

今まで“学生”という立場に不安を感じていたご家族が学生ヘルパーの良さを実感して下さり、派遣の継続を希望して下さる様になったケースもあり、研修の成果を感じています。

受講者の感想

ALS当事者の話を対面で聞く事ができたのはとても良かった。（胃瘻・吸引の）実際に道具を見たり使ったりする事ができたので仕事における心構えなど知る事ができ実際の仕事に活かせそうだと思いました。

ケアや援助を行なう人のことを“理解しようとする”という事の大切さが印象に残りました。利用者の自分がしたい・自分でできない・やってほしい事を伝える事が難しいからこそ、ケアをする人間が理解しようとする事でケアを向上させたり意気投合したり当事者の方に有意義な介護が出来るのだと思いました。

文字盤では利用者さんも忍耐のいる介助なので失敗せぬようスキルを磨かなければならないと思った。

申し込み受付中

重度訪問介護従事者養成研修

第4回　2024年2月25日/3月3日（日）

※受講料、スケジュールの詳しい内容はコチラから→

▲肢体不自由者の介護演習

▲コミュニケーション技術

断らない支援を目指し、つながる先を増やす

相談員　武田　櫻

増加する相談件数

現在わの会相談支援はひと月当たり約37件の計画相談を受けています。登録者数は100名を超えました。どれ一つとして同じ計画はなく、中には住まいの問題であったり、家庭内で問題を抱えていたり、入退院の調整など対応に時間のかかるケースも出てきました。必然的に訪問も増えています。

困難な局面に向き合うことに慣れることは中々ないと思いますが、実は相談員も同じです。チームを組んで共に学びながら乗り越えてゆくしかありません。ご本人やご家族、支援者や事業者、医療機関、行政などがチームに加わりますが、福祉計画の作成という点で相談員はそれを支えていきます。相談件数が増え、多様な対応が求められる中でいよいよマンパワーやスキルが求められている状況です。しかし、個人の頑張りには限界があります。

途切れることない支援を目指す

わの会相談支援はその中で「途切れることなく次に向かって行ける「断らない支援」を目指す。「つながる先」を増やす」ことを今年度の目標としました。

地域生活支援の一環として福祉制度利用の入り口に相談機関は位置しています。相談を必要としている利用者の困りごとやニーズは、混然一体となっていて「とにかく苦しい」状態であることが多いと感じます。単に他所に繋ぐだけでは“たらいまわし”となって疲弊を生んでしまわないか。相談機関の在り方が問われているように思います。

契約に至らずとも「まずは話を聞く」「困りごとや課題の整理」をすることは可能です。新規依頼の電話を受けるときに、わの会相談支援はそこに注意をしています。そして、直ぐには契約ができなくても待機リストを用意することで経過を追えるようにしています。

今年度のこれまでの成果

結果として2023年は、2件が課題整理をすることで契約には結びつかなかったが解決し、2件はしばらくしてからの新規契約に結び付いています。現在は7件の待機があり2か月毎の状況確認をしながら相談者に対応しています。

「そこに連絡をすることで、少しでも安心できる。」「つながることが出来る」相談を下半期も目指して行きたいと思います

事例

ある支援者会議にて～他職種連携の例

重度身体障害のAさん支援チームは、新型コロナ感染拡大防止のため長らく担当者会議が開けずにいましたが、新型コロナが感染症5類へ移行したことやご本人の症状の変化がありケアの確認が必要となったことから会議の開催しました。準備に一か月ほど時間を要しましたが病院の地域連携室と協働して計画相談が会議のコーディネータを務めました。

【参加者】

ご家族、訪問看護、生活介護、短期入所、訪問介護2社、重度訪問介護、かかりつけ医、主治医、病院、行政（障害者福祉課）、都（保健所）、ご家族のケアマネージャ、計画相談　**総勢15名**

生き生き人

人生楽しい！できることを続けたい！

秋林　奈津子（府中自立支援ネットワークわの会運営委員長）

世界自然遺産白神山地と日本海に抱かれた自然豊かな青森県深浦町(旧岩崎村）出身。いつも満面の笑顔で元気な90歳です。ご主人がデイサービスりんりんに通所された縁で、わの会の行事で自慢のハーモニカを演奏されたり参加されたりしています。今年度からネット（略称）の運営委員長になった秋林さんにインタビューしました。

生い立ちを聞かせてください？

昭和21年中学1年生の時、実家から電車で3時間かかる弘前高等女学校の寄宿舎に入りました。家は裕福な方ではなかったのですが、父が「いいふりこき」（見栄っ張り）だったからね。

昭和22年に新制中学校が施行され地元の中学校に移り、高校は受験して能代北高等学校に入り電車通学でした。乗車駅で業者から山菜やわかめを預かり降車駅まで運んでお駄賃をもらっていましたね。

そして、秋田県で自営業をしている家に嫁ぎ、息子と娘を授かりました。しかし、子供達が大学生で上京していた頃、夫の事業が不振になり、義姉のいる板橋区に移り住みました。立ち食い蕎麦屋で朝から夜まで働いて6年、急性肝炎（現在のC型）で入院し、入院中に肺炎、変形性股関節症になり半年後退院しました。すると今度は夫が脳梗塞で倒れ介護をすることになりました。生活が困窮し、都営住宅に入り何とか生活をしていました。17年前に娘の住んでいる府中に移転届を出し、2戸募集の難関を当てることができて、環境の素晴らしい今のところに引っ越してきました。

わの会との出会いは？

府中に住んで間もなく、佐々木節子（わの会元理事）さんに出会い互いの実家が三軒隣とご縁を感じ、夫（3年前他界）がデイサービスりんりんに通うことになりました。

評判のハーモニカを始めたのはいつ？

夫の介護に明け暮れていた60才の時、特に趣味もなくこのまま人生を終わらせたくないと思っていました。広報で募集していたハーモニカ教室の無料体験を見て、これだったらできるかもと通ったのが始まりです。始めは音も出なかったけれど、30年経ちました。奏法など奥が深く、今でも日本の童謡、唱歌、民謡など約100曲楽譜なしで演奏できます。9月末に単独ライブをし、黒田節は今までで一番よくできたと感動しました。

健康の秘訣は？

朝食をしっかり食べること。花壇の手入れをすること。草取りが大変ですが、季節に合わせて花を植え、いつも花を楽しんでいます。先日頂いた渋柿で干し柿を作ったりとぼーっとしている暇がありません。

これからやりたいことは？

昨年暮、何度か気を失いペースメーカーを入れました。術後回復も順調で、10月に里帰りし姉（その1週間後に他界）に会うことができました。新しいチャレンジというより今できることを続けたいです。2年前（写真）にやったヘアドネーションを再び挑戦しています。

一言お願いします。

わの会はこれからもどんどん大きくなっていきます。会員さんに元気を与えられるよう頑張っていきたいと思います。